

平成26年度 学校評価

三田市立ゆりのき台中学校

<保護者アンケート>

- ・実施時期 平成26年12月18日～25日
- ・回答者 1年保護者29名 2年保護者37名 3年保護者37名
合計103名（各学年1クラス抽出）
- ・評価基準 ア、そう思う イ、どちらかといえばそう思う
ウ、あまり思わない エ、思わない

1 生徒の学校生活について

【項目1】生徒たちは学校での生活を楽しく過ごしている。

<ア、61% イ、35% ウ、4% エ、0%>

【学校自己評価】

ア、イを合わせて96%の保護者から、子どもたちが楽しく学校生活を送っているという回答を得た。ほとんどの生徒たちにとって、学校に居場所があり、心を通い合える友達がいて、学習や部活動、学校行事に前向きに取り組んでいると考えられる。中学生という年頃は、心身共に大きく成長する時期であり、それゆえ外部から受ける影響も大きい。また、生徒個々の考えや思いも多様で、様々な受け取り方をしている。職員は、日頃から個々の生徒の状況を把握し、充実した学校生活を送れるよう適切な指導を心がけなければならない。

2 学校と保護者との連携について

【項目2】学校での生徒たちの様子を伝える取り組みがなされている。

<ア、43% イ、40% ウ、14% エ、3%>

【学校自己評価】

ア、イを合わせて83%で、全体的には保護者と学校との連携はとれていると考えられるが、十分ではないという保護者も17%に上っている。毎年、体育大会、文化祭はもとより、オープンスクールの開催や学年単位の保護者会、トライやる・ウィーク、転地学習、修学旅行の事前の説明会、進路説明会等を定期的実施している。これらの機会に合わせて授業参観や部活動参観も計画している。保護者の方々には、ぜひこれらの機会にご来校いただき、生徒たちの活動する様子をご覧いただければと考えている。また、学級の様子や部活動の状況については、各担任、各部の顧問が学級だより、部活動だよりを出しているが、発行については各職員に任されている。その他にも、学校だより、保健室だよりがあり、特に生徒指導担当が発行している「ゆりの青空」は、保護者の方々に大変好評である。

3 行事の内容・取り組みについて

【項目3】学校・学年行事（1年転地学習、3年修学旅行、体育大会、文化祭、オープンスクール等）は、適切な内容で実施されている。

＜ア、68% イ、30% ウ、2% エ、0%＞

【学校自己評価】

ア、イを合わせて98%の保護者の方々から、行事の内容・取り組みについて適切であるとの回答をいただいた。授業時数の確保を求められる中で、いかに学校行事を充実させるかが毎年の課題であるが、保護者の方々のご理解をいただきながら、今後も学校行事の充実に向けて、工夫改善を重ねていきたい。

4 学習指導について

【項目4】生徒たちに確かな学力をつけるわかりやすい授業がなされている。

＜ア、20% イ、57% ウ、19% エ、4%＞

【学校自己評価】

ウ、エを合わせて23%の保護者が学習指導に対する不満や不安を感じておられるという結果であった。全国学力・学習状況調査においては、良好な結果を得ており、日常の学習状況においても、生徒たちは集中して学習に取り組み、落ち着いた授業がなされている。ただ、基礎的な学力の定着を進めるにあたっては、授業中を含め生徒への支援等学力向上への手立が望まれている。学校生活の基盤は学習指導にあり、職員は生徒の学力向上と学習への関心・意欲を高めるため、常に授業の工夫・改善に努めなければならない。本校では、今年度「目標と指導と評価の一体化」を目指して全職員で授業研究に取り組んでいる。これからも充実した授業と個々の生徒の学力向上を目指したきめ細かな指導を重ねていきたい。

5 いじめ・暴力への取り組みについて

【項目5】学校は、いじめや暴力等のない学校づくりに取り組んでいる。

＜ア、40% イ、45% ウ、13% エ、2%＞

【学校自己評価】

ア、イを合わせて85%の保護者が本校の取り組みに理解を示していただいた。本校では市教委が実施しているいじめ調査の他にも、定期的に教育相談週間を設け、生徒が担任と学校生活について話し合える時間を確保している。また、生徒間の様々な問題について職員間で共通理解し、いじめや暴力行為に対して即時に対応している。15%の保護者が不安を抱いておられるが、本校の取り組みを信頼していただき、心配なことがあれば学校に相談され、家庭と学校が連携して問題の解決にあたるのが大切であると考えている。

6 人権を尊重し、正しい判断ができる生徒の育成について

【項目6】学校は、生命や人権を尊重し、正しい判断ができる生徒の育成に取り組んでいる。

＜ア、37% イ、51% ウ、10% エ、2%＞

【学校自己評価】

ア、イを合わせて88%の保護者に理解を示していただいた。道徳の授業や学校行事を含め学校生活のあらゆる場面で人権の尊重や道徳的価値観について考えさせる機会をもっている。また、今年度は平和教育や国際理解教育をテーマにした講演会を行った。今後も引き続き道徳教育の充実に努め、生徒の道徳的実践力を高めていきたい。

7 積極的に人間関係が築ける生徒の育成について

【項目7】学校は、挨拶ができ、積極的に人間関係が築ける生徒の育成に取り組んでいる。

＜ア、35% イ、51% ウ、13% エ、1%＞

【学校自己評価】

ア、イを合わせて86%の保護者から肯定的な評価をいただいたが、挨拶ができない生徒が多いとの意見も聞かれた。部活動中など元気に挨拶ができている反面、個々の場面では消極的な姿勢が見受けられる。本校の生徒にとって大切なことは、他者との関係の中で、自分の能力をいかに主体的に活かしていくかということであり、そのための具体的な手立てとして挨拶があり、そこから人間関係の構築へと繋がっていくのではないかと考える。身につけた知識と教養、技能を十分に発揮できる人間になるために、自分を積極的に表現できるよう、学校生活の中であらゆる機会を通して育成していきたい。学校教育目標「温かさの実感、優しさの実感、そして夢と志を！」の実現を求めて。

【学校関係者評価】

生徒の学校生活を、保護者は子どもの友達関係や部活動の様子等を通じて感じとっている。学校と保護者が連携するためには、共通理解するための手立てが必要であり、それが学校行事の公開や学校からの便りといえる。行事の対象に、地域での奉仕活動も取り入れてはどうか。奉仕の精神を学ばせることも必要である。いじめ等の指導においては、ケイタイ・スマホの使用について、家庭の協力も得ながら進めることが必要である。人権の尊重や正しい判断のできる生徒の育成についても、学校が家庭と連携すると共に、家庭の状況を、地域や関係機関等みんなでみていく態勢が大切である。声かけ事案等多い地域ではあるが、積極的に人間関係が築ける生徒を育成するために、まずは挨拶ができる生徒を学校・家庭・地域で育てていかなければならない。